

富山大学 都市デザイン学部 同窓会

Vol. 02

同窓会誌
(発刊 2025年3月)



会長挨拶

原田 隼輔

日頃より、都市デザイン学部同窓会活動に、ご支援、ご理解、ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。そして、令和6年能登半島地震で被災されました皆様の、1日も早い復興をお祈りしております。

さて、第3期生の皆さま、ご卒業、誠におめでとうございます。皆様が入学された年はちょうど新型コロナウイルスが大流行し、思い描いていた大学生活とはかけ離れたものであったかと思います。講義はオンラインで開講され、キャンパスに入ることすら難しい時期もありました。このような学生生活を乗り越え、皆様のご卒業を迎えることができたこと、大変嬉しく思います。また、同窓会活動としても昨年度の後援会と共同で卒業祝賀会が開催できたことは新たな風となり、今後の活動の糧になると考えております。

都市デザイン学部同窓会では卒業祝賀会支援事業をはじめ、同窓会誌編纂事業、在校生支援事業を3つの柱として、活動を行なっています。設立から4年が経ち、それぞれの事業が少しずつ体系化し始めているところになります。私自身、会長に就任して1年ほどであります。そのため、至らぬ点多々あり、会員の皆様へ十分な活動が行えていないこと、反省しております。昨年度の卒業祝賀会を皮切りに活動の幅を広げ、会員の皆様への更なる支援を行なっていきたく存じます。結びとなりますが、今後の皆様のご活躍とご発展を心よりお祈り申し上げます。



都市デザイン学部は2018年の設立以来、約7年が経過し、さらなる発展と深化を目指して努力を続けております。このたび、第2号となる同窓会誌を発刊する運びとなり、学部の近況や成果を皆様にお伝えできることを大変嬉しく思います。この機会を通じて、設立以来の取り組みを振り返りながら、未来への展望を共有させていただければ幸いです。

都市デザイン学部は「持続可能な社会の実現」を理念に掲げ、地域社会やグローバルな課題に対応できる専門性と創造性を兼ね備えた人材の育成を目指してきました。特に、データサイエンスを活用した教育プログラムをいち早く導入し、地域課題に基づいたPBL(課題解決型学習)の実践を通じて、学生が主体的に社会問題に取り組む場を提供しております。また、本学部の教育プログラムは、JABEE(日本技術者教育認定機構)からその質を認められ、卒業生は社会で高い評価を得ています。

学部の運営においては、同窓会の皆様からの多大なご支援をいただいております。これまで、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、卒業式後の公式行事としては各学科に分かれての学位記授与のみでした。しかし、2023年度からは、学部全体での立食形式の卒業記念パーティを実施し、非常に好評を得ることができました。この開催に際し、同窓会の皆様からのご支援を賜りましたことをご報告するとともに、この場をお借りして深く感謝申し上げます。

学部内の各学科も、それぞれ特色ある取り組みを進めています。たとえば、材料デザイン工学科ではアルミニウムリサイクル研究、都市・交通デザイン学科では中心市街地の活性化プロジェクト、地球システム科学科では災害のメカニズムの研究などを通じて、地域社会への具体的な貢献を目指しています。これらの取り組みは、持続可能な地域づくりやグローバルな課題解決に向けた学部の強みとして位置づけられています。

今後は、教育や研究活動をさらに充実させるため、新たな資格認定制度やカリキュラムの導入を計画しております。本学部では、JABEE認定プログラムを通じて技術士補の資格を取得できるほか、数理・データサイエンス・AI教育の「応用基礎レベル」に対応する教育認証制度も実施しています。一方で、近年の18歳人口の減少に伴い、国立大学全体の定員削減が予想される中、志願者数の維持や修士課程への進学率向上が課題となっています。そのため、現在の教育認証制度に加えて、新たなカリキュラムの導入を検討中です。特に、原子力リスクアセスメントや再生可能エネルギー教育に関するフラグシッププロジェクトを通じて、地域社会に根ざした取り組みを進めるとともに、グローバルな課題解決に向けた貢献を目指していきます。

最後に、これまで達成してきた成果と未来への展望を共有する今回の機会が、皆様との絆を一層深める契機となれば幸いです。未来を切り開く皆様との協力を心より期待しております。



事業一覧

- 4月(入学式、説明会、新入生対応)、幹事会*
- 5月(役員会、総会対応)、幹事会*
- 6月～7月(総会)、幹事会*
- 7月～8月(会誌立案、オープンキャンパス対応、企業説明会立案)、幹事会*
- 9月～12月(会誌手配、企業説明会・講演会の実施、卒業祝賀会支援案、新入生対応)、幹事会*
- 12月(役員会)、幹事会*
- 1月(会誌印刷(必要分)、卒業祝賀会支援案、新入生対応・入学式対応)、幹事会*
- 2月 幹事会*
- 3月(卒業祝賀会支援、決算・予算)

※幹事会は随時

在校生支援事業

学生生活支援

就職ガイダンス

会社説明会

卒業生支援事業

同窓会賞 授与

記念品 贈呈

祝賀会支援

その他

令和 4 年度決算報告

令和 4 年度 都市デザイン学部同窓会一般会計決算報告

2022 年 4 月 1 日～ 2023 年 3 月 31 日

収入の部

(単位：円)

費目	予算額	決算額	差引額	摘要
繰越金	8,020,548	8,020,548	0	
R4 在校生会費		839,406	△ 839,406	ゆうちょ銀行 13 人 390,000 円 北陸銀行 15 人 449,406 円
R5 入学生会費	2,258,335	2,005,666	252,669	ゆうちょ銀行 39 人 1,139,560 円 北陸銀行 29 人 866,106 円
準会員等会費	20,000	50,000	△ 30,000	ゆうちょ銀行 1 人 10,000 円 北陸銀行 2 人 40,000 円
利息収入	5	40	△ 35	ゆうちょ銀行 15 円 北陸銀行 25 円
その他の収入	50,000	0	50,000	広告・寄附 (1 万 * 5 件)
合 計	10,348,888	10,915,660	△ 566,772	

差引額(予算-決算)

支出の部

(単位：円)

費目	予算額	決算額	差引額	摘要
会議費	50,000	0	50,000	在学生支援、事務経費
通信費	200,000	140	199,860	振り込み用紙郵送費
事業費	1,950,000	728,105	1,221,895	卒業式飲食代、記念品、同窓会賞、同窓会誌印刷 350 部、在校生支援
事務費	100,000	77,172	22,828	振込用紙印刷費、カラー封筒
各部事業への協力金	140,000	72,970	67,030	富山大学同窓会連合会協力費等
人件費	518,400	507,450	10,950	週 2 回 * 6 時間 * 900 円 * 48 週
その他の支出	50,000	0	50,000	
各種手数料	50,000	45,178	4,822	ゆうちょ銀行手数料 10,198 円、北陸銀行手数料 34,980 円
次年度繰越金	7,290,488	9,484,645	△ 2,194,157	
合 計	10,348,888	10,915,660	△ 566,772	

差引額(予算-決算)

次年度繰越金計算方法

次年度繰越金 9,484,645

※収入決算(円) - 支出小計(円) = 次年度繰越金(円)

※繰越金内訳

ゆうちょ銀行	1,112,088
ゆうちょ銀行振替口座	4,341,504
北陸銀行	4,030,053
富山第一銀行	1,000
	9,484,645

令和 4 年度監査報告

2022 年度富山大学都市デザイン学部同窓会会計について、帳票類、収支金額、残高内容を監査しましたところ、適正妥当な会計処理が為されていると認めます。

監査年月日 令和 5 年 5 月 31 日

会計監事

佐伯 淳
布村 紀男

卒業生からの一言・思い出

都市デザイン学部の強みを生かして

理工学研究科都市・交通デザイン学プログラム 久志 勘太

(令和4年度地球システム科学科卒業)

私は都市デザイン学部地球システム科学科を卒業し、現在は富山大学大学院理工学研究科の都市・交通デザイン学プログラム・行動防災研究室に在籍して災害や防災情報に関する研究を行っています。

災害は誘因(大雨や地震)と素因(構造物や人間の脆弱性)が組み合わさって発生します。学部時代には、地球システム科学科の専門科目で大雨・地震・火山噴火の発生メカニズムといった災害誘因について詳細に学びつつ、学部共通科目で他学科の先生方から構造物の耐久性や防災行動といった災害素因の基本についても学ぶことで、災害に関する、分野を横断した多角的な視点を身につけることができました。それを活かし大学院では、線状降水帯や局地的な大雨など予測の不確実性が高い現象(誘因)を元に発表される警報や注意報といった防災気象情報と人間の防災行動(素因)を結び付け、情報の利用価値を高め防災行動の高度化に資するための研究を行っています。災害素因を専門に研究する都市・交通デザイン学科の教員の研究室に所属しながら、災害誘因を専門に研究する地球システム科学科の教員からも助言・指導いただける研究環境となっており、災害素因、誘因両方の専門家が揃う都市デザイン学部の強みを生かした研究活動ができていると実感しています。近年、災害が激甚化し、防災研究への社会的期待や注目度は上がっていると思います。その期待に応えられるよう、都市デザイン学部でしかできない防災研究に励んでいきたいです。



大学4年間で振り返って

理工学研究科都市・交通デザイン学プログラム

都市・交通デザイン学科 (令和5年度卒業) 酒井 健志



富山大学に入学してからの4年間で授業や部活動で多くの体験することができました。入学当初は、コロナウィルスが流行していたため、人と会う機会がなく不安でした。そんな中、先生方がオンラインでボードゲーム(大富豪)をする場を設けてくださり、学科の皆と画面越しで顔を合わせ少し安心したのを覚えています。都市・交通デザイン学部では、土木工学に関連した授業だけでなくデータサイエンスやデザイン思考など多様な授業があります。デザイン思考や地域デザインPBLの授業ではグループワークを通して、皆が違う意見を持つなかで一つの方向に向かっていく難しさを実感しました。そのような中で、デザイン思考の授業で矢口教授がおっしゃっていた「まずは相手の意見を肯定する」というグループワークのコツを意識すると話し合いが良く回りました。3年生の前期で受けた設計

製図Ⅱでは、桜橋という富山市の橋をオートCADで再現しました。深夜までCAD室に残り皆で完成させたことは良い思い出です。自主プロジェクトでは、進んで動くことの大切さを学ぶことができました。3年、4年生の時に参加したスチールブリッジブリッジコンテストでは非常に良い経験ができました。夜遅くまで大学に残りながらメンバーと作業し、橋ができあがったときは大きな達成感を感じました。4年生の研究室配属からは水理デザイン研究室に所属し、木村一郎教授のもと汜濫シミュレーションの研究を行いました。最初は慣れないプログラミングで躓きましたが木村先生の熱心な指導により、汜濫解析のモデルについての研究を深めることができました。

私は春から大学院に進学します。この大学4年間で学んだことを更に深め、グローバルに活躍する技術者になりたいと思います。



大学生活での思い出

都市・交通デザイン学科 (令和4年度卒業) 塩満 萌恵



都市・交通デザイン学科で勉学に励んだ時間は、私にとって非常に有意義でかけがえのないものです。3年次編入で入学したため、実際に在籍したのは2年間だけでしたが、その間に勉強面だけでなく、特に「広い視野で俯瞰的に物事を捉え、判断していくことの大切さ」を学ぶことができました。

都市・交通デザイン学科では、土木や建築だけでなく、データサイエンスやデザイン思考など様々な分野から、持続可能で豊かな都市の実現へとアプローチしていきます。このカリキュラムを通じて、目的が同じであってもその達成のための手法は一つではないため、幅広い分野に対して知識と関心を持つことが大切だと実感しました。そのためには、自分の専門分野でなくても、常に様々な事象に対してアンテナを高く張り、広い視野で俯瞰的に物事を見ることが重要になると思います。

また、卒業研究では、その過程で専門分野の知識を深められただけでなく、論理的に物事を考える力を身に付け、データ収集や解析のスキルを磨くことができました。研究を通して培った、これらのスキルや論理的な思考は、社会で生きていく上で欠かせないものだと思います。

私は昨年春に卒業し、航空会社の技術系総合職に就職しました。現在は、現場での経験を積むために出向し、無線通信機や気象レーダー、機内Wi-Fiなどの電波を発信する装置を扱う部署に所属しています。大学時代以上に毎日が勉強の日々ですが、どんなに小さなことでも自分の仕事が空の安全の一翼を担うと考え、責任と同時に大きな達成感を感じます。また、飛行機を一旦一便安全に飛ばすためには、技術だけでなく、貨物や客室、空港など多くの部門との連携も必要不可欠です。将来的には、大学で学んだ「広い視野で俯瞰的に物事を捉えることの大切さ」を忘れず、様々な部門を連携させるパイプ役として、移動が単なる旅の手段だけでなく、移動そのものが旅の楽しみの一つとなるような仕事をしたいです。



都市デザイン学部での学びと仕事への活用

佐藤鉄工株式会社 橋梁・鉄構事業部 技術部 技術グループ 鈴木 祥大

(都市・交通デザイン学科 令和3年度卒業)



私は本学部学科を卒業して橋梁メーカーに就職しました。職種は橋梁現場の施工管理がメインです。施工管理の仕事は業務内容が幅広く、本学部学科で得た知見を用いる機会が非常に多いです。都市・交通デザイン学科で学んだ基礎科目から測量や実験等の実習まで、他では経験することのできない多様なカリキュラムが現在の業務で幅広く活用できています。また、業務内での課題解決の際には「デザイン思考」の重要性に気づかされました。課題の最適解を導き出すための柔軟な発想や周囲との協調性、プレゼン

テーション能力などは課題解決型学修(PBL)などを中心とした「デザイン思考」が大きな支えとなっています。

本学部学科は教授間及びOB同士の繋がりが強く、就職後も仕事で顔を合わせる機会が多いです。縁あって初めて配属された現場では別会社に就職したOBと共に1年半仕事をしました。今後も貴重な繋がりを大切にしながら「デザイン思考」を軸として、地域のインフラを支える技術者として成長していきたいと思っています。



大学4年間を振り返って

材料デザイン工学科 光機能材料工学講座（令和5年度卒業） 角田 琴音

大学生活を通して学んだことは、主体性と友人の大切さです。高校生の頃は主体性の重要性は理解していましたが、あまり実感が湧きませんでした。高校では先生の指示に従えばよく、強制的に部活に参加させられたため、自分から動く必要があまりありませんでした。しかし、大学では自主性が求められます。私が入学した当初はコロナウイルスの影響もあり、サークル勧誘がほとんどありませんでした。そのため友人の誘いがなければ、サークルやアルバイトには参加しなかったでしょう。もちろん、授業を受けていれば卒業は可能でしたが、理想とするキャンパスライフではありませんでした。そのため誘ってくれた友人に感謝しています。友人の存在と主体性の重要性を学び、退屈な人生を避けるために自ら行動することの大切さを実感しました。実際に憧れていた理想のキャンパスライフを過ごせたかどうか微妙ですが、楽しい思い出がいくつかあることに満足しています。社会に出るとますます主体性が求められると思います。そのため、自ら行動できるよう努力し、自らを促す環境に身を置くことが出来るように頑張ります。



大学院生になって感じたこと

理工学研究科 理工学専攻

マテリアル科学工学プログラム 鉄鋼材料工学講座（令和4年度卒業） 矢口 模之佑

私は都市デザイン学部材料デザイン工学科に入学し、材料について学んでいく中で、重要な基盤材料として使用されている鉄鋼材料に興味をもちました。そこで、大学4年生から鉄鋼材料工学講座に所属し、小野英樹教授をはじめとして鉄鋼材料工学講座の先生方や先輩方の指導のもと二酸化炭素排出量削減のための水素を利用した製鉄プロセスの研究を行っています。大学4年生の頃は、研究室に所属したばかりで、研究室での生活に慣れたり実験方法や実験器具の使用法を覚えたりするので精一杯でした。大学院生になってからは、研究室での生活にも慣れて余裕が生まれ、大学生の頃よりも出来ることが増えました。大学院での生活は講義や研究に加えて、オープンキャンパス、学科でのイベントの企画・運営などにも携わることができるようになり、とても充実しています。また、ポスターや口頭での学会発表の機会にも恵まれ、貴重な経験を積むことができています。

4月からは修士2年生となり、修士課程最後の1年となります。今後も製鉄プロセスにおけるカーボンニュートラルを目指して日々研究していきたいです。



（令和6年3月時点のものです）

卒業証書授与式・祝賀会

